

児童虐待を防ぐ
誰もが当たり前につながる
伴走型子育て支援



十文字高等学校 ウィステリアーズ



児童虐待数はこの30年で…



2022年度 全国で児童虐待により…

72人

の命が奪われた

東京都における児童虐待対応件数は…

増加し続けている



東京都.2025.「みんなの力で防ごう児童虐待～虐待相談のあらまし（2023年度版）～」

2022年度東京都では児童虐待により…

14人

の命が奪われた

令和4年度東京都で虐待により亡くなった2人の事例…



4才児

薬物等で死亡させた
容疑で両親が逮捕

過去に心理的虐待で
一時保護歴あり



高校生

飛び降り自死

同居中の父から虐待
過去には母からも虐待

虐待を起こしてしまいう保護者に
どんな感情を抱きましたか？

児童虐待が発生するメカニズム

子ども時代の
被虐待経験

生活のストレス

意に沿わない子ども

心理社会的孤立



虐待を **選びたくて選んだわけではない** のでは？
自分も 虐待をしてしまう **可能性** があるのでは？

高校3年間かけ、

児童虐待とその保護者を支援するための探究活動

を実践してきた



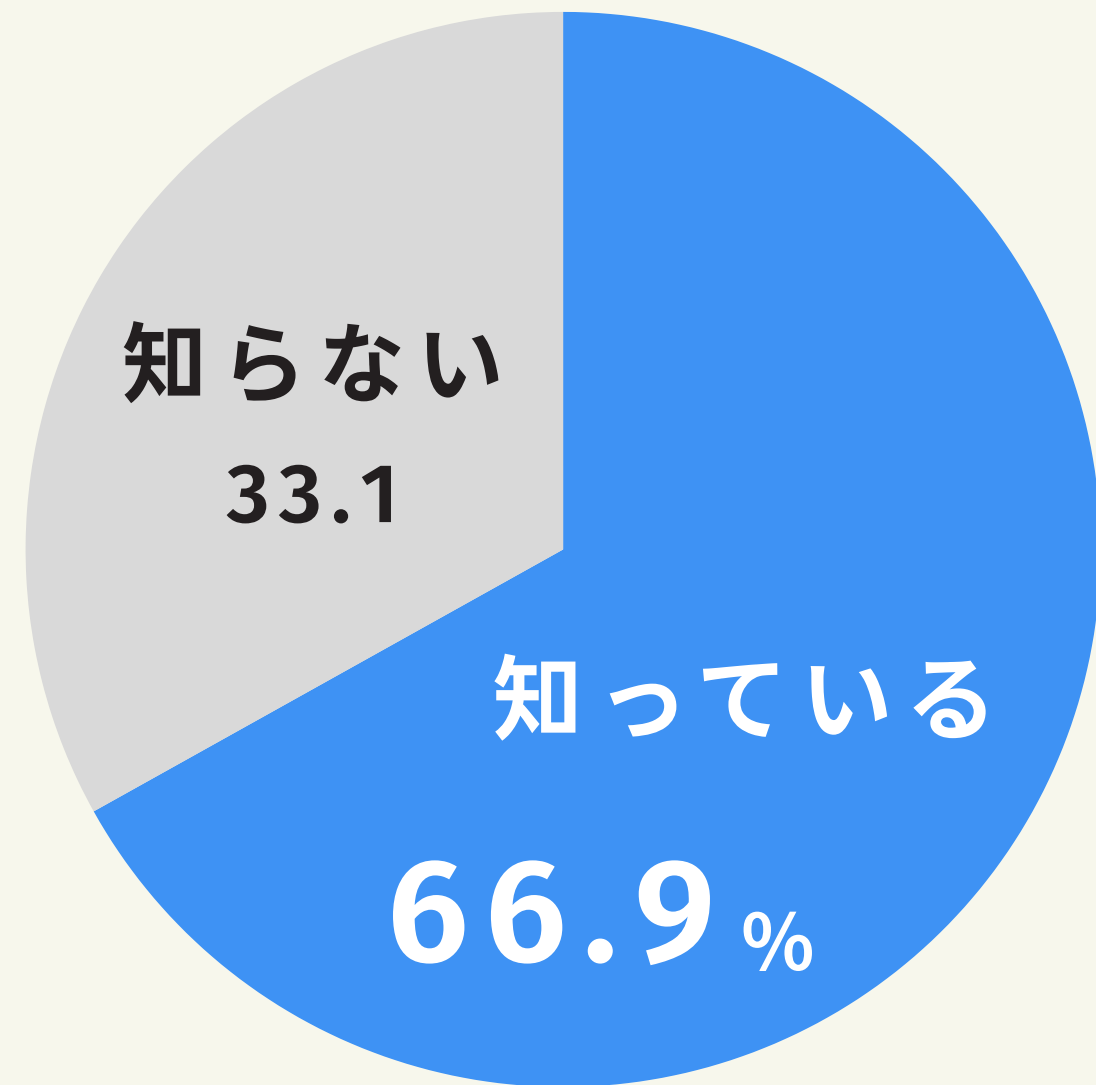
児童養護施設へのヒアリング
「虐待後の保護者への支援がどう行われているのか」

公園での調査活動
「子育て政策の理解や利用率」

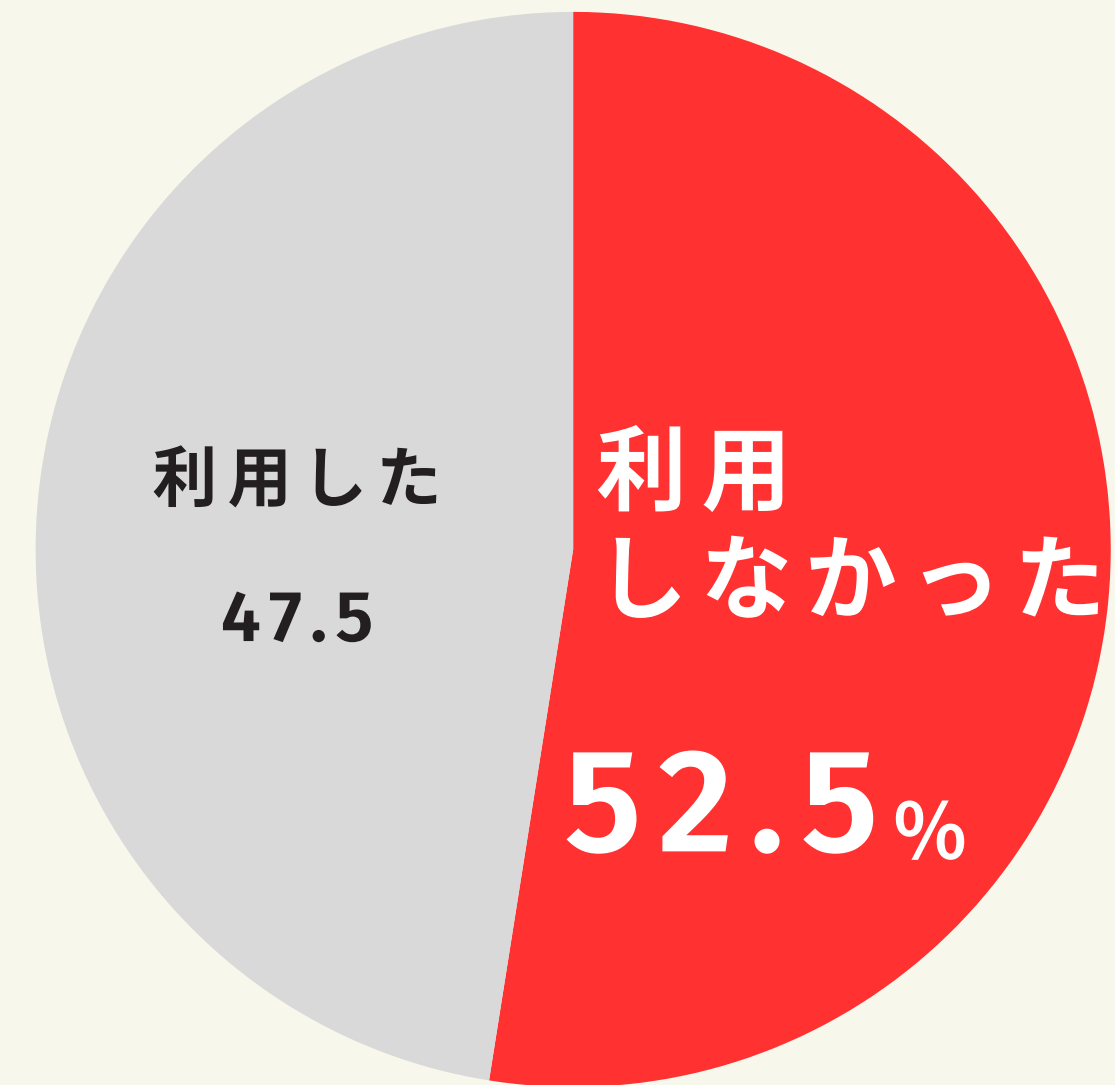
- 児童相談所 「189」
- 子育て世代包括支援センター
※子ども家庭センターと呼ぶ地域も
- オレンジリボン運動
- ショートステイ、トワイライトステイ
- ホームスタート
- こども食堂

児童や保護者を
支援する
さまざまな制度が
広がっている

支援制度が十分に活用されていない

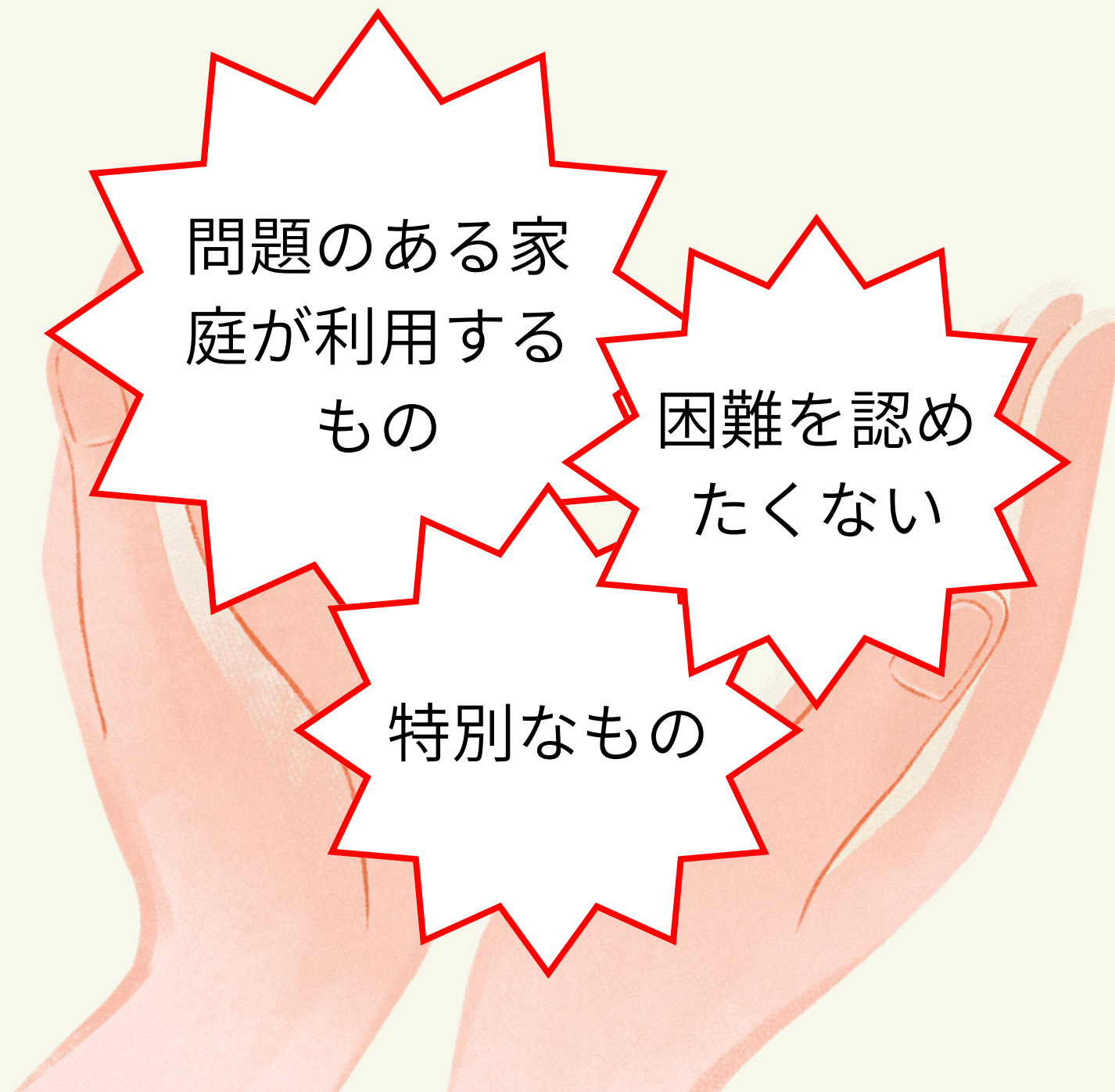


子育て世代包括支援センターの認知度



子育て世代包括支援センターの利用率

問題の根本的な原因①



多くの支援は相談者側からの
”申請主義”を前提



支援を受けることに対する
心理的抵抗感



支援が当たり前でない

問題の根本的な原因②

支援が分断的 ▶ 継続的支援不足・あきらめ

妊娠期

乳幼児期

就学期



保健所
保健センター
自治体母子保健課

- ・妊婦健診
- ・妊婦面談
- ・両親学級
- ・産前相談



子ども家庭支援センター
保育園、幼稚園
児童発達支援事業所

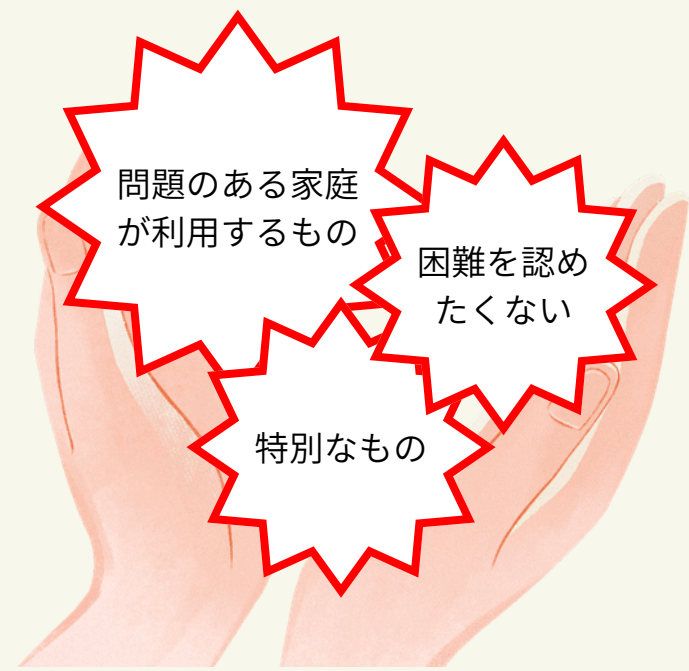
- ・乳幼児健診
- ・育児相談
- ・一時保育
- ・ショートステイ



小学校
教育相談センター
スクールカウンセラー

- ・教育相談
- ・心理相談
- ・発達支援
- ・家庭相談





支援を受けることへの
心理的抵抗感




継続的支援不足
あきらめ

家庭の孤立が広がる

自らの経験・トラウマ・安易な手段

深刻な児童虐待



東京都ならではの問題点
地域とのつながりが希薄

孤立の悪循環

児童虐待の発生および深刻化が **未然に防がれる社会**

支援が「特別なもの」ではなく「生活の一部」として **受け入れられる社会**



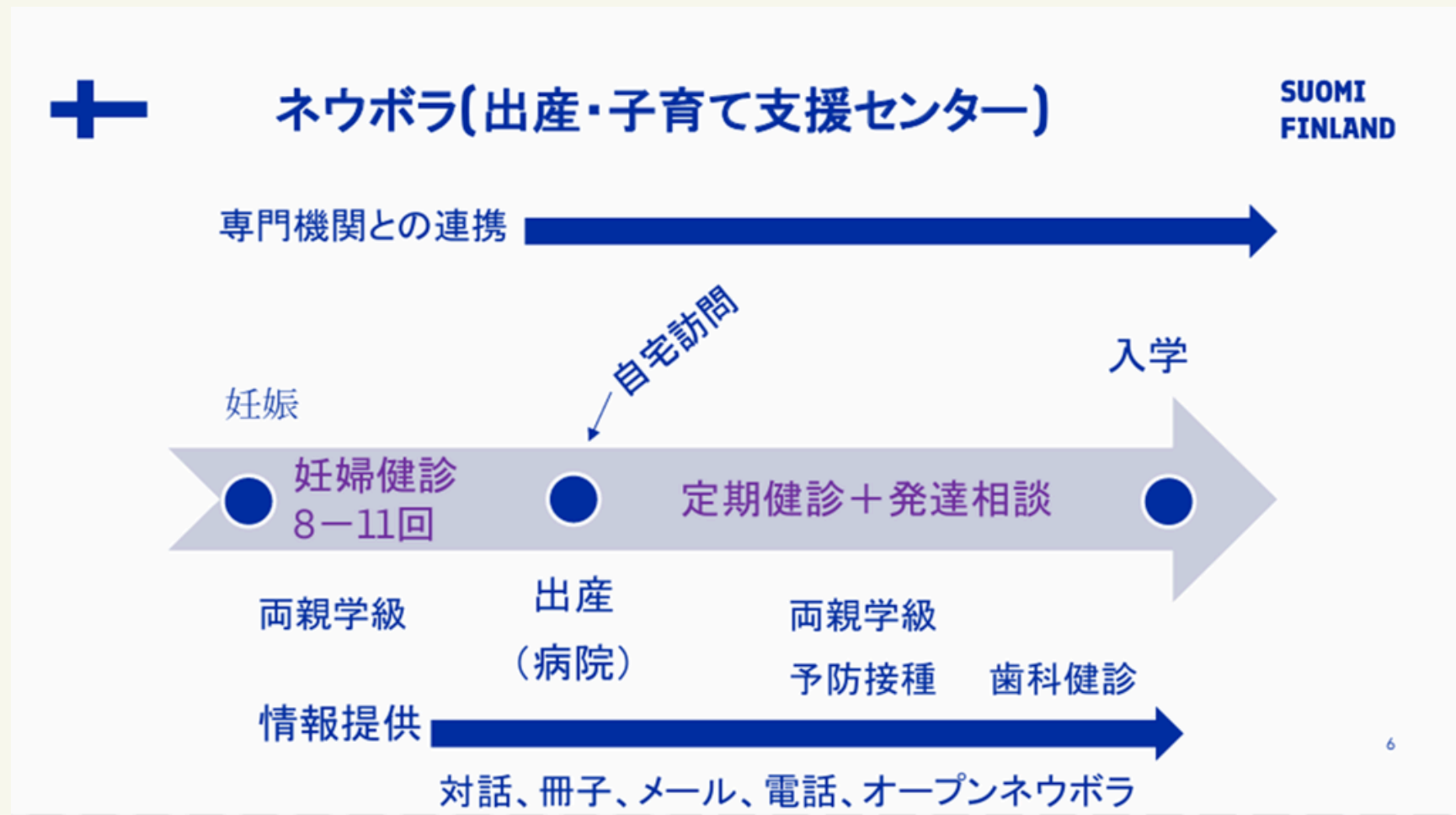
A close-up photograph of two hands clasped together in a supportive gesture. The hands are positioned in the upper and lower portions of the frame, with the fingers interlaced. The background is a soft, out-of-focus light blue and white. A white horizontal band runs across the middle of the image, containing text.

誰もが当たり前につながる伴走型支援

ネウボラ拠点

ネウボラ制度とは

虐待の死亡事例が少ないフィンランドにて
妊娠期～子育て期まで、同じ医師や保健師が継続して家庭を支える子育て支援制度



- 健診や育児相談、家庭訪問などを通して、家族全体を包括的に支援し、**情報も切れ目なく引き継がれる**
- 支援を「特別なもの」ではなく「**生活の一部**」として利用できる仕組み
- 高利用率と**虐待予防**につながっている

政策実現のポイントは…

"支援"を意識しない
支援場所の
環境づくり

深刻な虐待を
未然に防ぐ
組織づくり

支援が継続され
つながりが生まれる
仕組みづくり

政策実現のポイントは…

"支援"を意識しない
支援場所の
環境づくり

深刻な虐待を
未然に防ぐ
組織づくり

支援が継続され
つながりが生まれる
仕組みづくり

日本でも普及しつつあるネウボラ制度

渋谷区

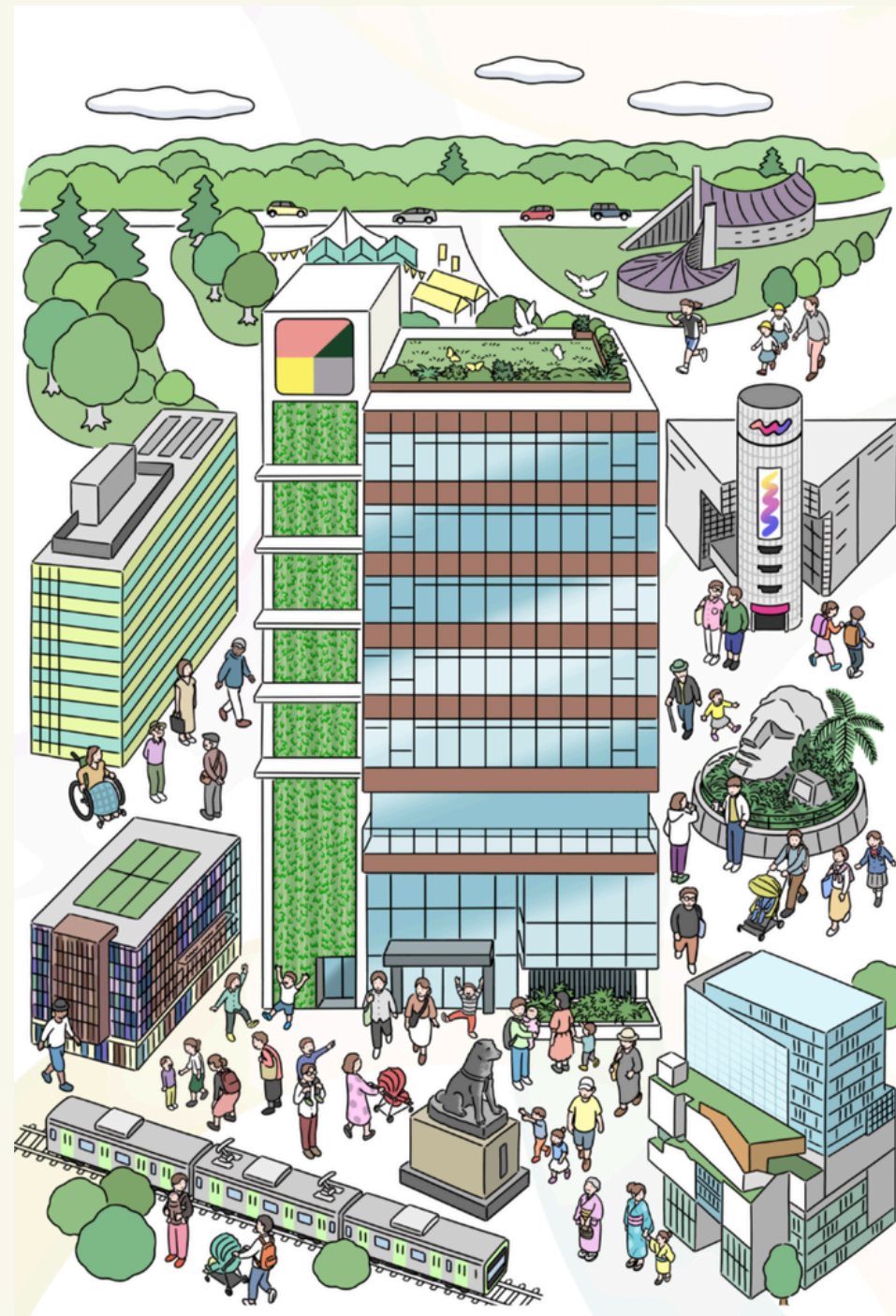


和光市



渋谷区子育てネウボラ

- ✓ 保健所や相談場所、居場所機能が**一体化**
- ✓ **妊娠期から子育て期に至るまで**、関係機関が連携して関わり続ける



- R_F 屋上庭園
- 8_F 子ども家庭支援センター
- 7_F 子ども発達相談センター
- 6_F 教育センター 中央保健相談所
教育相談・就学相談 X線検査室
- 5_F 中央保健相談所診察
受付 / 講堂
- 4_F 中央保健相談所
事務室 / 栄養指導室 / 歯科保健室
- 3_F coしぶや 子育てひろば
- 2_F coしぶや カフェ・アトリエ
プレイグラウンド
- 1_F エントランス

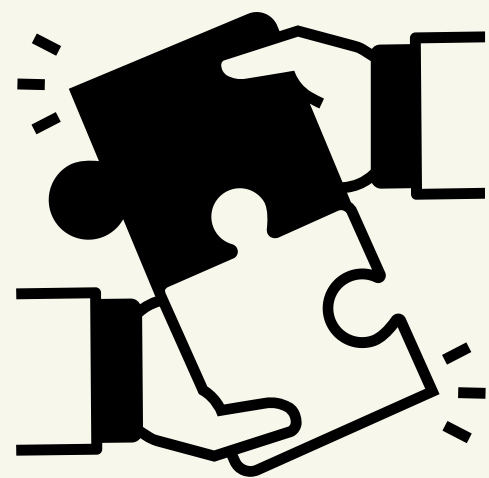


➤ 相談以外の機能を一体化した拠点施設

✓ 相談場所



✓ 居場所機能



政策実現のポイントは…

"支援"を意識しない
支援場所の
環境づくり

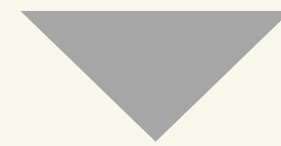
深刻な虐待を
未然に防ぐ
組織づくり

支援が継続され
つながりが生まれる
仕組みづくり

渋谷区子育てネウボラの問題点



児童相談所と**一体化できていない**



「子育て」と「**虐待・相談・指導・保護**」が分断されている

～ 児童相談所 ～

役割

虐待に関する相談
養育に関する相談
性格・行動・非行
発達・障がい

設置義務

都道府県および政令指定都市
23区全地区に
設置されているわけではない

東京都が主導することで
児童相談所が
一体となった施設が
実現可能!!

▶ 4つの機能を一体化した拠点施設を新設！

伴走型ネウボラ拠点

- 検診
- +
- 子育て・発達などの相談機能
- +
- 居場所機能
- +
- 虐待相談 児童相談所



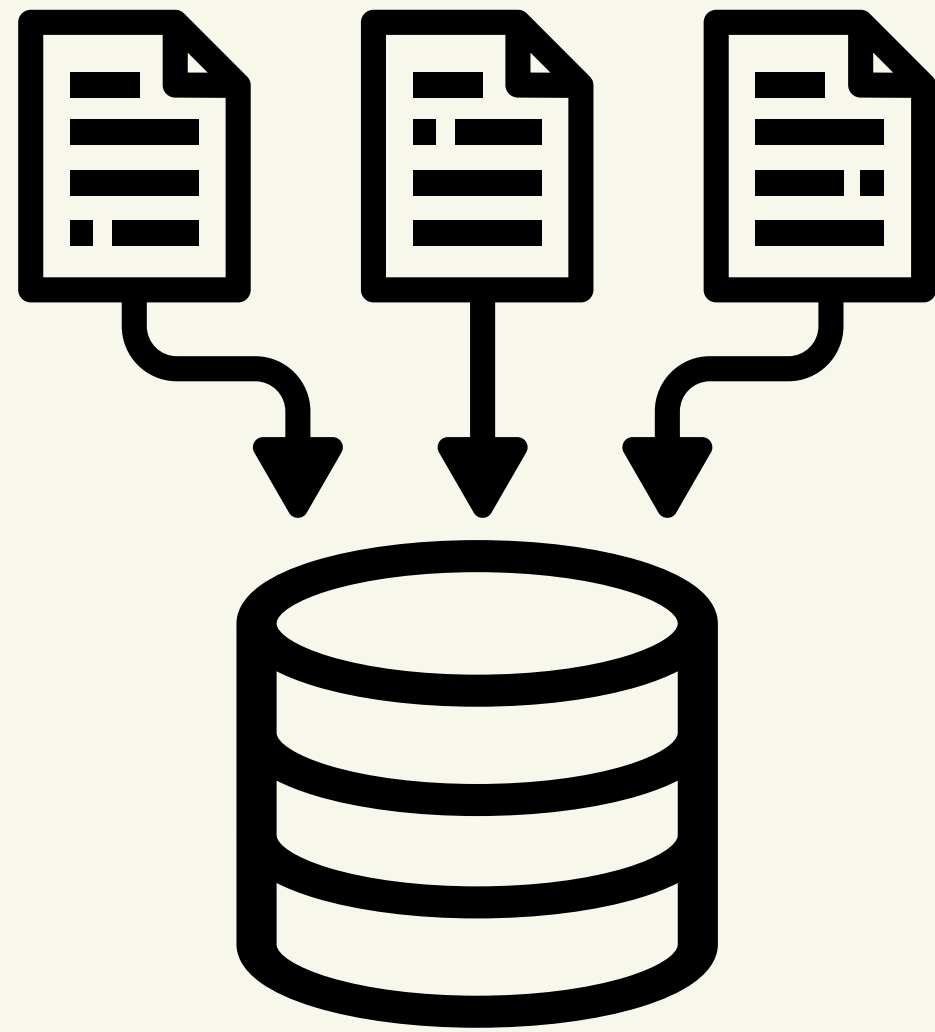
政策実現のポイントは…

"支援"を意識しない
支援場所の
環境づくり

深刻な虐待を
未然に防ぐ
組織づくり

支援が継続され
つながりが生まれる
仕組みづくり

▶ データベースと、ネウボラ拠点連動アプリの開発

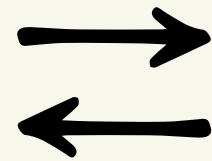


データベース

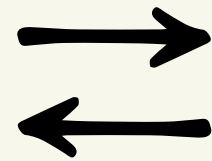


伴走型ネウボラアプリ

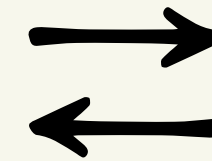
情報を一元化



情報をアプリに反映



施設や相談予約も可能



Before

担当者がまた違う…
また最初から説明しなきゃ…
どうせ解決しない…
誰に何の相談したっけ…？



After

情報が蓄積され、毎回説明する負担を軽減
電子化された情報は、
専門領域やライフステージを超えて共有
相談内容が記録され、引継ぎしやすくなる
支援者側も相談者側も
継続利用しやすくなる





東京都

東京都の切れ目のない子育て支援「ネウボラ拠点」

妊娠期から小学校卒業まで、すべての家庭に寄り添い、安心をつなぎます



妊娠期



出産・乳児期



幼児期



学童期(小学生)



小学校卒業まで

担当保健師・社会福祉士・カウンセラーがサポートします

ネウボラ拠点のサポート



健診・相談



子育ての不安に寄り添う



親子が集える場



専門スタッフによるサポート



担当保健師・社会福祉士・カウンセラーがサポートします



あなたの状況に合わせて、チームで継続的にサポートします

すべての家庭に寄り添う支援

- ✓ 妊娠期から小学校卒業まで
- ✓ 切れ目のないサポート
- ✓ 安心して相談できる環境



すべての子どもと家庭が、安心して笑顔で暮らせる社会へ

※イメージ図

政策実現にむけた課題

人材確保と 育成制度の充実

ネウボラ拠点に配置する保健師・社会福祉士・カウンセラー等の専門人材を確保

人員増加を目的とした資格取得の支援や採用強化

ただ支援や採用強化をするのではなく、虐待予防や家族支援に関する専門的な知識を取得するための研修制度の充実

支援拠点の整備

拠点の設置・運営には、既存の子育て支援施設や保健所等の活用も視野に入れる

モデル事業として5年で東京都内に10カ所ほど設置

段階的に設置範囲を拡大し最終的には全国に設置を目指す

予算の確保

渋谷区の子育てネウボラにかけられている予算が20億円

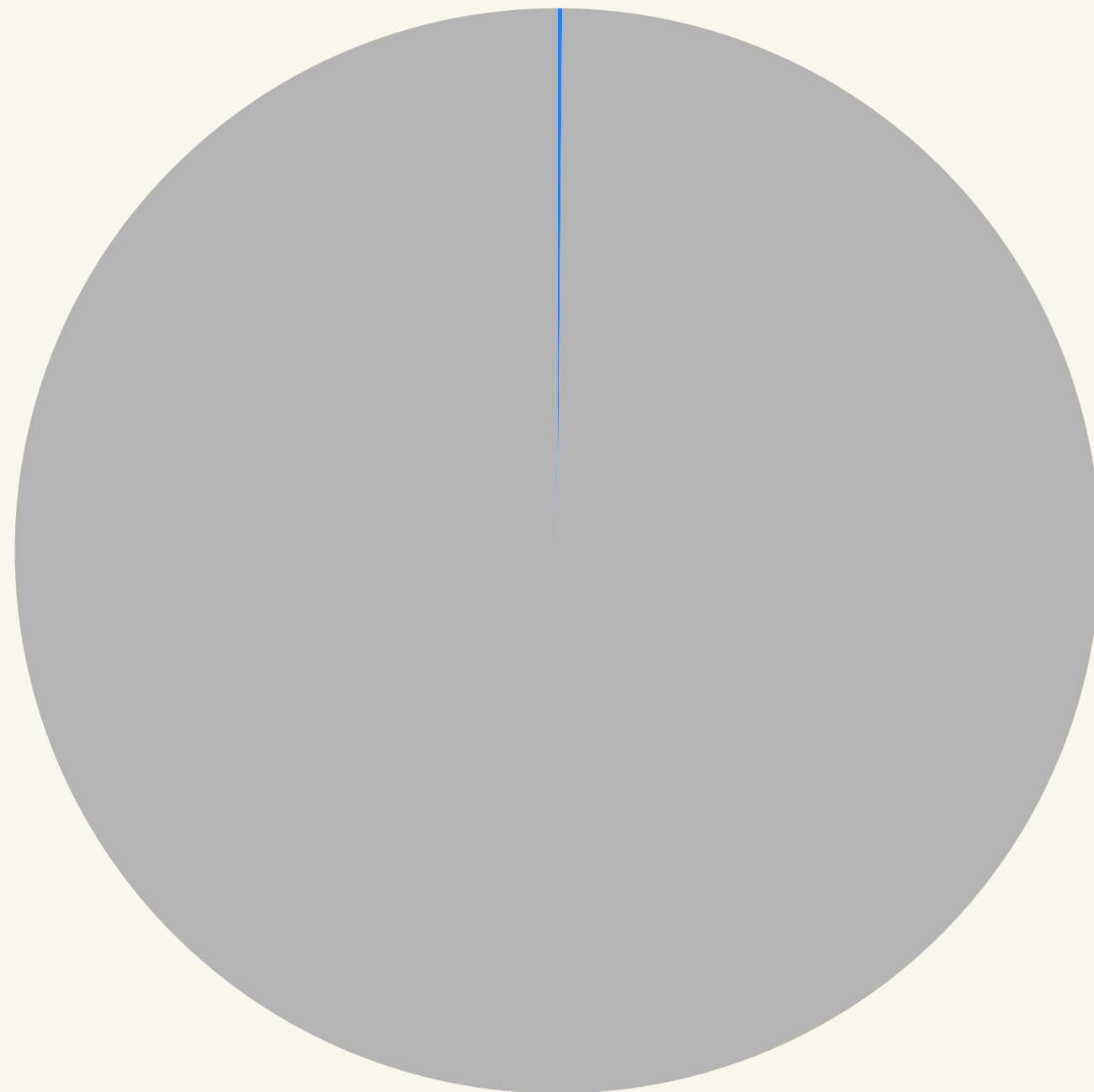
⇒ 児童相談所もふくまれることから、維持費用を **約22億円** と想定

アプリとデータベースの初期開発費として **約3億円** を想定

拠点を新設するための費用を1カ所あたり **約100億円**

令和7年度東京都 当初予算から見る実現可能性

0.14%



渋谷区の子育てネウボラにかけられている予算が20億円
⇒ 児童相談所もふくまれることから、維持費用を 約22億円 と想定

アプリとデータベースの初期開発費として 約3億円 を想定

拠点を新設するための費用を1カ所あたり 約100億円と想定

125億円

／ 9兆1500億円

令和7年度東京当初予算

成果を検証し政策を改善していくための指標

支援の質を多面的に評価し、改善を重ねていく

① 利用者満足度

② 虐待に関する指標

③ 継続利用率

④ メンタルヘルスケアに関する指標

※アプリ上で定期的にアンケート実施

※自由記述欄を設け、利用者の率直な意見を把握

※専門家の現場での実感もあわせて収集

誰にも言えない苦しさを
誰かに言える社会。

この東京で実現しませんか？

